

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174200707		
法人名	有限会社 おのざわ		
事業所名	グループホームさくらプラザ		
所在地	埼玉県児玉郡神川町大字元阿保639-1		
自己評価作成日	平成26年1月17日	評価結果市町村受理日	平成26年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=1174200707-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=1174200707-00&amp;PrefCd=11&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	平成26年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設全体が、大きな家族である事を前提にケアを考えています。  
寄り添って・支えあって・笑って・感動して、何処にでもある平凡な生活を、  
その人らしく、送れるよう支援しています。  
また、地域との関係を大切にしています。  
近隣の農家から、お米を年間購入し、必要に応じ精米をしています。  
養鶏農家からは、新鮮な卵を電話連絡で届けてもらっています。  
季節の野菜を頂くことが多く、入居さん・スタッフともに  
美味しい食事作りを、頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は八高線丹荘駅から徒歩5分と交通の便が良く、民家に囲まれた木造平屋建てで、2ユニット、定員18名のグループホームである。、玄関を入るとユニット毎に左右に分かれており、各ユニットのリビングは天井が高く、シックな木彫造りの天窓からの採光があり、居室・浴室・トイレ・通路等は、いずれも広いスペースでゆったりとした造りになっている。「個々の人格を尊重、家庭的な雰囲気、地域の中で安心して暮らせる」を理念とし、家族のような触れ合いを感じてもらえるような生活を心掛けている。

kaku

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践につなげています。	「個々の人格を尊重、家庭的な雰囲気、地域の中で安心して暮らせる」を理念に掲げ、実践している。朝礼で理念を確認し合い、職員全員による共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域農家の食材を使ったり、出来るだけ行事等、参加しています。	地域の情報は運営推進会議の出席者や区長から得ている。地域のボランティアや小学生の訪問を受け入れ、バーベキュー行事や運動会等に参加し、交流を深めている。入居者・職員は天気の良い日には散歩に出かけ挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア・学校の施設体験学習等積極的に受け入れ、認知症の人の理解を広めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の話し合いに出された貴重な意見など、職員と共有し、サービス向上に活かしています。	2ヶ月に1回、家族・自治会長・区長・地域包括職員が参加のもとに運営推進会議を開催している。近況報告や意見交換を行い、運営に反映させており、次回の会議開催日を決めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターのケアマネ連絡協議会に、積極的に参加し、多くの情報を頂いたり気軽に相談等しています。	地域包括支援センター主催の会議が月1回開催され、他の福祉施設関係者や行政と情報交換をし、サービスの向上に努めている。同センターはホームより徒歩5分の所にあり、事あるごとに訪問や相談を行い、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立地条件上、玄関は、施錠して入居者の安全を確保していますが、各棟のホールからは外への出入りが自由になっています。	道路が隣接しており車の往来があるので、安全確保のため玄関の施錠をしているが、ホールから外への出入りは自由にできる。一人ひとり、その日の気分や状態を木目細かくとらえ、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部から学ぶ機会をもち、積極的に虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて、支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解り易い言葉で、十分な説明を行い納得していただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。 又、面会時の会話の中からも要望や意見をサービスや運営に反映させています。	玄関に意見箱を設置している。家族には面会訪問時等に常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りを行っている。出された意見・要望は会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を開き、意見を聞き、反映させています。	月1回、職員会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日頃から職員同士のコミュニケーションを図るよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況を把握し労働時間や条件の改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修だけでなく、施設内での研修も行い、意識改革に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の勉強会や会議等、積極的に参加しサービスの質を向上させるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添いながらじっくり傾聴し 本人の安心を確保することを努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	丁寧な傾聴の中から、困っている事 不安・要望など、気付けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に合わせた柔軟な対応に 心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大きな家族としての 位置づけで考えています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に支え合う、関係になれるよう 努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないよう 親身になって支援しています。	入居者の生活歴や家族関係者等からの情報把握に努め、ニーズに沿った支援をしている。友人・知人等の面会や訪問の受け入れを行っており、電話の連絡を取り持つなど、継続的な交流ができるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに認め合う関係作りを 目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、支援させていただきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、本人の思いの実現を検討しています。	入居者や家族関係者等から思いや意向の情報を得るようにしている。コミュニケーションの難しい方とは様子・仕草等を観察し、必要に応じて筆談等も行い、支援している。入居者にとって、どのように暮らす事が最良なのかを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談により把握できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・報告・観察等により現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状をきちんと把握した上でそれぞれの意見・アイデアを反映し作成しています。	介護計画は、日常生活の様子や個別記録を活用し、アセスメントを6ヶ月毎に見直し、入居者・家族に説明し同意を得て作成している。変化があった場合には、随時、家族・関係者と話し合い、検討の上、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現状にあったプランになるよう情報を確認し合い、正しい情報の元見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、柔軟な取り組みを心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用していきよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談しながら、納得のいく医療を受けています。	入居者や家族の意向を大切に、かかりつけ医の受診を行っている。基本的に受診は家族対応であるが、必要な時には送迎や受診に立ち会うなどの支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報を共有し、再確認しながらそれぞれが十分な能力を発揮できるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換は勿論の事、時々、病院の相談員への挨拶周りをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	各家族と必要に応じ、十分な説明の上取り組んでいます。	入居時に聞いた要望等を尊重するとともに、必要に応じて入居者や家族と話し合い、要望には可能な限り対応し、かかりつけ医やホームと方針を共有し、その都度検討の上、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の講習会に参加して学んでいるが、まだ実践力には、バラつきがあるようです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の定期的な訓練は行われるも、地域との協力体制は、徐々に築いています。	定期的な訓練が行われているが、地域の方の参加は無い。地域とは災害時相互援助協定書を取り交わしているが、連携した訓練は行われていない。	いつ、どの時間帯に起きる分からない災害に備え、近隣と連携した実践的な訓練を行う事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員、注意し合い対応しています。	一人ひとりの人格を尊重し、入居者の気持ちを大切に考え、目立たず、さりげない言葉掛けや対応に努めている。職員の中には身につけてない者もいて、その都度注意し合い、支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いろいろな場面において自己決定の支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分達の都合の良い、サービスになっていないか確認しながら、ケアを考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買い物に行って洋服を見立てたり、ちょっとしたことでも、よく褒めています。いつも、褒めることを探しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各自の状況にあった支援をしています。	旬の食材や新鮮なものを採り入れ、一人ひとりの好みや苦手なものを踏まえたメニュー作りに工夫を凝らしている。調理準備や片付け等も入居者と共に行い、職員が入居者を見守りながら、同じテーブルを囲んで楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の状況にあった支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、行っています。夕食後、義歯使用者は、入れ歯洗浄剤に浸けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ、トイレでの排泄を支援しています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、入居者の自尊心を大切に声掛け、誘導を行っている。トイレでの排泄を基本に自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、野菜を多く摂取するよう工夫しています。 便秘症の人には、主治医と相談しながら排便コントロールをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、各自リラックスできるようにもく浴剤・ゆず湯・花湯(バラの花びら)等季節や香りを楽しんでいます。	一人ひとりの習慣や好みをよく聴いて、入浴支援を行っている。週2~3回、個浴で楽しめるように対応している。また、季節の柚子湯や花湯等をゆっくり楽しんで頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、のんびりくつろいで頂く。 ホットミルク・生姜湯・酒かす等、寒い冬は、身体を寝る前に温めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は、共有しています。 又、すぐに確認できる場所にファイルしてあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の状況にあった支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得ながら、希望に添うよう支援しています。	暖かく天気の良い日には、近隣を散歩したり、買い物に出かけたり、外気に触れられるよう支援している。また、季節の花見やリンゴ狩り等、遠方への外出には車で出掛け、気分転換に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自の状況にあった方法で支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方々と相談しながら居心地の良い空間を提供しています。	ゆったりした共有空間は、天窓からの採光が程よい明るさとなっている。側面には入居者と職員で制作した季節の作品を展示している。ガーデニングの好きな入居者が育て、咲かせたハイビスカスの花や植物を窓側に置き、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	様々な場所に、1人用の椅子や2~3人用のソファ等置き、各自、自由に過しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人の使い慣れた物や好みのものを持参して頂くよう薦めています。	居室は日当たりや風の通りが良く、ゆったりとした造りになっている。使い慣れた子筆筒や小物等が飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自の残存能力を活かし自立した生活が送れるよう配慮しています。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時相互援助協定を地域と結んだものの書類上で留まっている。	近隣の方々と交流を密にし、災害時等についても助け合っていきたい。	運営推進会議等でこの件について検討する。	2ヶ月
2				当ホームの避難訓練時、地域の避難場所を利用して頂き、実際に訓練してみる。	3ヶ月
3				施設の訓練時、近隣の方や地域の役員さん方に参加をお願いする。	6～12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。